

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです

### いつか独立したいと考えている人“滅私奉公”から抜け出せる社員、抜け出せない社員

ビジネスマンであれば、「独立」を志すべきです。特に若い人には、そうあってほしいと願います。人間が根本的に必要とするものは野性味であり、ハングリー精神です。ところが、日本の若者は「草食系」などといわれるくらいその野性味やハングリー精神を失っているとよくいわれます。とても由々しきことです。一方で、仕事術に関する本やビジネス書が売れているということは、自分の仕事力を上げたい、学びたいという意欲は確かにあるのです。ただし、それは“滅私奉公”するために一生懸命になっているわけであって、本当に仕事ができる人になるためには、リーダーとして、人の上に立つために必要なことを学ぶべきです。

人の上に立つ人に必要な資質は何か―。それは、独立して経営者という立場になったとき求められる能力は何か、ということと同意です。ですから、リーダーになるために必要なことを学ぶためにも、常に「独立する」という目標掲げて、自分を大きく育てる原動力にしてほしいと思います。私は常々、まずは「いい会社」に入社することが大事だといっています。お金や待遇のことではなく、先に述べたようにロジックがしっかり成り立った会社のことです。人間は環境に習うものです。いい会社に入ればその仕組みなり社風なりを習得し、自分の基礎をつくることができます。基礎ができれば、仕事への取り組みや、経営のあり方に関して大きくブレることがありません。つまり、不正に走ったり、大きな損失を出しかねない間違いを犯したりすることはなくなります。

かつてライブドアが証券取引法違反を起こして騒ぎとなりましたが、まさにあれは「基礎」を疎かにした結果でした。対照的といえるのは、楽天の三木谷浩史氏でしょう。競争の激しいインターネット業界で生き延びてきたのも、三木谷氏がかつての勤め先である日本興業銀行で、それなりの基礎をたたき込まれたからです。だから、ブレることがありませんでした。以前、株式会社楽天のたしか創業五周年パーティーに出席させていただいたときのことで。当時社長だった三木谷氏は、挨拶の壇上に上がった途端、感極まって涙をこぼし始め言葉になりません。すると、副社長が出てきて、そつなく挨拶をして終わりました。最後にようやく落ち着いた三木谷氏は、「これで私が会社の中で何をしているのか、わかっていただけたと思います」と話し、参加している人たちの笑いを誘いました。当時、彼は大器ではありながらも、そのくらい未完成であったのです。しかし、今の日本の社会にとって、彼のような存在が非常に重要なのです。未完成でもハングリーな若者が、未完成なりにそれでも頑張って頑張って、やがて大きく育っていき、社会を大きく変えていくという流れが次々に生まれることが、何よりも今求められています。変化のない、あるいは変化の少ない社会は徐々に衰退していくからです。

できれば 40 代、せいぜいでも 50 代くらいの方が頂点に立てる社会に日本は変わっていかなければなりません。派閥闘争に明け暮れているような老舗の会社を、若手が起こした新興企業の勢いが食ってしまうようなことも、世間的に見れば当たり前になっています。そういった流れが日本に起こっていないことこそ問題です。若い人は自ら積極的に飛び出して行ってください。新入社員だからといって遠慮することはありません。「いずれ自分は独立するんだ」という意識を常に持つのです。若い人の意識が変われば、日本という国そのものがもっとイノベティブに変わっていきます。最近の若い人は元気がない、などとぼやく年配の方もいますが、若い人の中にもできる人は山ほどいます。もし今、明治維新ならぬ平成維新が起き体制が大きく変わったら、20 代、30 代のなかに大活躍する人材が必ず出てきます。では、なぜ彼らが今の世の中で埋もれてしまっているかというと、若い人が活躍できる場を与えない社会になってしまっているからなのです。

リーダーになるために必要なことを学ぶためにも、常にどのような目標がいますか？

( )